

プラン名称: 田子にんにく学校に入学しよう!

チーム名	宮城大学チームちばさち	対象地域	青森ステージ
大学名	宮城大学	テーマ	「観光まちづくりプラン」 1~3から軸となるテーマを選択(複数可・必須) □1) 青森の芸術・文化 ☒2) 青森の食 ☒3) 青森での体験
リーダー名	千葉さち		
指導教員名	宮原育子		
メンバー名	千葉久美子 中津留裕人 橋本采奈 桃澤晏加		

【本選出場】
観光庁長官賞・マイナビ賞 受賞

田子にんにく学校に入学しよう!

企画概要 planning overview

青森県三戸郡田子町(以下:田子町)はにんにく生産量日本一として全国で有名な町である。しかし他にも、1992年に日本一となった星空や町の人々の温かいおもてなし、みるくの滝やタコブ創造村およびスキー場などの自然と、田子町には豊富な資源があふれている。まちづくりをするにあたり、田子町のように観光資源の選択肢がたくさんある地域は、より多くの人を楽しませることができる地域力があると考えられる。



そこでターゲットを、より個人を尊重しなければならない「家族」に設定し、田子町の地域力向上を目指したい。また、家族のような小団体が旅行することは、地域の活性化を支えることにつながる。今回は田子町の観光資源をまるごと味わってもらうため、田子を代表する「にんにく」「星空」「自然」「人々」の4つの資源と関わる以下のプランを提案する。なお、宿泊方法は、民泊とする。

プログラム program

1 9:00-10:30	にんにく先生の講義	役場のにんにく振興課の方に田子にんにくの由来などのお話を伺いながら、夜のハーベキューで使うにんにくドレッシングを作る。なお、にんにくドレッシングの作り方は、ガーリックセンターの方の協力を要請する。
2 9:00-10:30	工作の時間	
3 9:00-10:30	ハーベキュー先生の講義	天文台の方に出張講義をしてもらう。星の見方や季節の星の紹介などをしながら、田子町の星空の美しさを知ってもらう。
4 9:00-10:30	星空先生の講義	
5 9:00-10:30	民泊先生の講義	修了証書の授与
6 9:00-10:30	自由研究	全ての過程を終了したら、2日目に田子町のオリジナルキャラクター、たっこ玉子から家族で一つ修了証書とにんにくブーケを渡す。

蛍光塗料と画用紙を使ってオリジナル星座の制作。夜の天体観測に向けて自分だけのお星様をつくる。なお、制作は役場の方に協力を要請する。
※1、2歳ともガーリックセンター内のギルロイカフェで行う

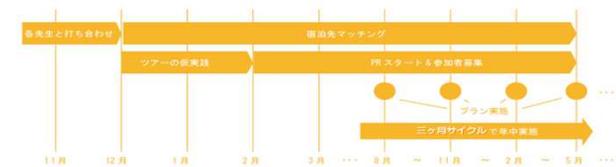
地田ファームの方に田子牛の貴重さ、歴史などについてお話を伺いながら田子の地場産品を味わう。

宿泊してきた家庭に、田子町の良い所や歴史などについて話してもらう。

予算 budget

○参加費
移動費 大人(高校生含む)1000 小中500 小学生以下 無料
宿泊費 大人4000 小中2500 小学生以下1500円
BBQ費 一人3000円 小学生以下の値段は現在確認中(ittwan)
(例)4人家族(大人2人 小中学生2人)の場合
移動費 3000円
宿泊費 13000円
BBQ費 12000円
計 28000円

実現計画 Implementation planning



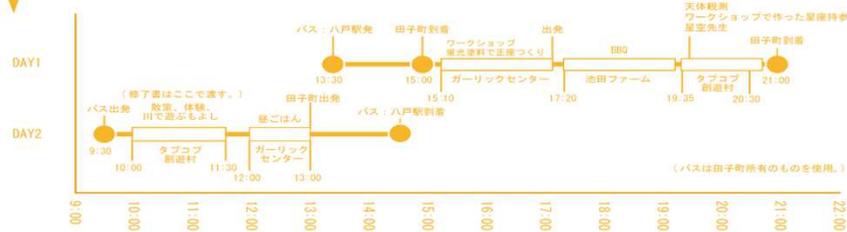
PR方法 promotion method

- プリント配布: 東北6県の小学校へのプリント配布。
- JAFとの連携: 宮城大学と繋がりのあるJAFと協力、「JAFナビ」へ掲載して頂く。
- ふるさと納税: 参加費が負担軽減1位のためふるさと納税と共におしらせを配布する。
- 物産展: 駅前などで開かれる物産展などで田子町をPR。
- シャトルバス: 交通アクセス不良というイメージからの脱却。

新規性 newness

- コンセプトの明確化
 - 田子町全体を「学校」に見立てることで小学生の興味を引く
 - 地域資源の発信
 - フォトコンテストにより田子町の魅力を自分から探してもらうことで、より身近に感じてもらう
 - にんにくで有名な田子町の新たな観光資源の発信
- 通年を通して行うことができるプログラム

タイムスケジュール time schedule



効果 effect

今まで着目されなかった星空という観光資源が見直される

民泊などで住民が参加する事で、田子の地域力向上

継続的に人を呼び込む仕組みづくり

収益の確保

田子町の観光の新たな資源につながる

田子町の人々のまちづくりに対する意識改革

一部の人と積極的に関わりあう仕組みづくり